

CITATION: Santesso N, Carrasco-Labra A, Brignardello-Petersen R. Hip protectors for preventing hip fractures in older people. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Bone, Joint and Muscle Trauma Group, 2014 Issue 3; Update Art. No.: CD001255 DOI: 10.1002/14651858.CD001255.pub5.
CRG名: Cochrane Bone, Joint and Muscle Trauma Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 18 June 13
Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 3; Update

アブストラクト

背景: 介護施設に入所している高齢者や自宅で暮らす高齢者は転倒リスクが高く、転倒後に股関節骨折を起こすおそれがある。ヒッププロテクターは、股関節骨折のリスクを低減する手段として提唱されている。ヒッププロテクターはプラスチック製(硬性)またはフォームパッド製(軟性)の保護具で、通常は特別にデザインされた下着のポケットに入れて使用する。

本レビューは、1999年に初めて発表され、以降2010年まで数回にわたって更新されてきたコクラン・レビューの最新版である。

目的: 体外用ヒッププロテクター(股関節パッドまたはヒッププロテクターパッドと呼ばれることもある)の提供によって高齢者の股関節骨折リスクが低下するかどうかを明らかにする。

検索戦略: Cochrane Bone, Joint and Muscle Trauma Group Specialised Register(2012年12月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2012、第12号)、MEDLINE(1950年~2012年11月第3週)、MEDLINE In-Process(2012年12月18日)、EMBASE(1988~2012年第50週)、CINAHL(1982~2012年12月)、BioMed Central(2010年1月)、試験登録簿および関連性のある論文の参考文献一覧を検索した。

選択基準: ヒッププロテクターを提供した介入群を、ヒッププロテクターを提供しなかった対照群と比較したすべてのランダム化または準ランダム化比較試験。

データ収集と分析: レビューア2名が個別にバイアスリスクを評価し、データを抽出した。試験実施者にその後追加された情報を求めた。データは、必要に応じて固定効果モデルかランダム効果モデルを用いて統合した。

主な結果: 今回レビューした研究19件のうち、9件でクラスター・ランダム化が行われていた。これらの研究では約17,000例を対象としていた(平均78~86歳)。ほとんどの研究は、全体的に骨折アウトカムバイアスリスクが低かった。18件の研究では、試験で特別な下着に入れた硬性または軟性のヒッププロテクターについて検討していた。

介護施設または地域介護のセッティングで実施された研究14件(参加者11,808例)で得られたデータを統合したところ、股関節骨折リスクのわずかな低下を示すエビデンスの質は中等度であり[RR 0.82、95%信頼区間(CI) 0.67~1.00]、絶対的効果は、ヒッププロテクターの提供によって股関節骨折例が1,000人あたり11例減少(95%CI、20例減~0)した。

地域で実施され、股関節骨折リスクに及ぶ影響がほとんどないか、全くないことを明らかにした試験5件(参加者5,614例)のデータを統合すると、エビデンスの質は中等度であり(RR 1.15、95%CI 0.84~1.58)、絶対的効果は、ヒッププロテクターの提供によって股関節骨折例が1,000人あたり2例増加(95%CI 2例減~6例増)し

転倒(率比1.02、95%CI 0.9~1.16)、もしくは股関節または骨盤以外の骨折(率比0.87、95%CI 0.71~1.07)に及ぼす効果はほとんどないか、全くない可能性が高い。しかし、骨盤骨折のリスク比はRR 1.27(95%CI 0.78~2.08)であり、これはヒッププロテクターの提供により骨盤骨折例が1,000人あたり1例増加(95%CI 1例減~5例増)という絶対的効果に相当する。

ヒッププロテクター装着中の皮膚刺激などの有害事象の発現率は0%~5%であった。コンプライアンスは、特に長期で不良であった。

レビューアの結論:ヒッププロテクターは、介護施設や地域介護のセッティングで高齢者が利用できるようになれば、転倒の頻度を高めずに、股関節骨折リスクを低減する可能性がある。しかし、ヒッププロテクターは、骨盤骨折のわずかなリスクを若干高めるおそれがある。ヒッププロテクターを提供した高齢者の受容度とコンプライアンスの低さがその使用の障壁となる。受容やコンプライアンスに影響を及ぼす可能性のある個人的要因やデザイン要因について理解を深める必要がある。

平易な要約(Plain language summary)

高齢者における股関節骨折予防のためのヒッププロテクター

ヒッププロテクターとは？ 介護施設に入所している高齢者や自宅で暮らす高齢者は転倒リスクが高く、転倒後に股関節を骨折する可能性があります。ヒッププロテクターはプラスチック製(硬性)またはフォームパッド製(軟性)の保護具で、通常は特別にデザインされた下着のポケットに入れて使用します。ヒッププロテクターは、側方へ転倒することで生じる股関節への衝撃を和らげる目的で装着します。

ヒッププロテクターは股関節骨折を予防するか？ ヒッププロテクターの股関節骨折予防効果に関するレビューを実施しました。2012年12月までの関連性のある全研究を検索しました。80歳前後の約17,000例を対象とした研究19件が同定されました。

全体的には、以下の結果についてこれらの研究から得られたエビデンスの質は中等度でした。

介護施設に入所している高齢者では、ヒッププロテクターを提供すると、一股関節骨折の可能性が若干低下する可能性がある。一骨盤骨折のわずかな可能性が若干高まる可能性がある。一他の骨折または転倒にもたらす効果はおそらくほとんどないか、全くない。自宅で暮らす高齢者では、ヒッププロテクターを提供すると、一股関節骨折にもたらす効果はおそらくほとんどないか、全くない。ヒッププロテクターを装着した際、皮膚刺激などの副作用を発現した人はほとんどいませんでした。しかし、ヒッププロテクターを提供されても、装着しないことがしばしばありました。受容やアドヒアランスに影響を及ぼす可能性のある個人的要因やデザイン要因について理解を深める必要があります。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日: 2015年 6月24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、2013年6月からコクラン・ライブラリーのNew review, Updated reviewとも日単位で更新されています。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、タイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。